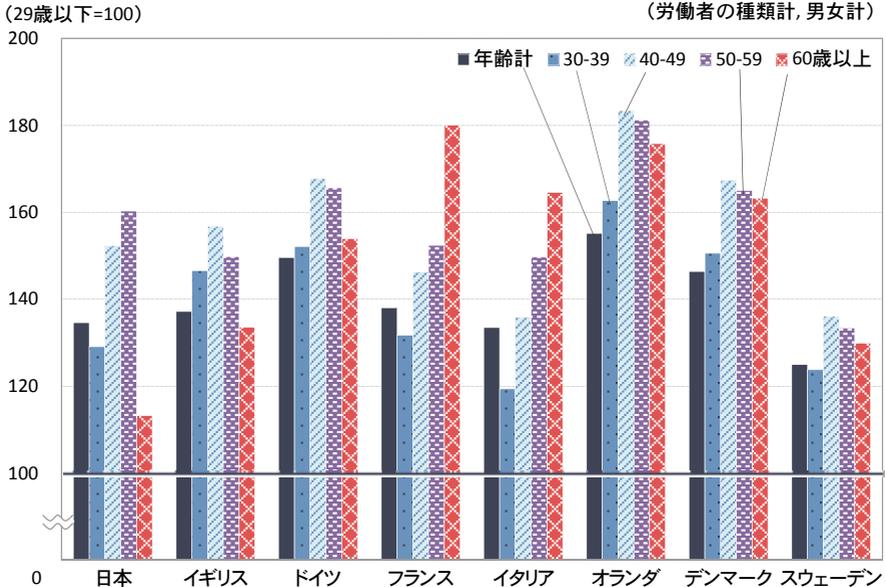


5-3 年齢階級別賃金格差



▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第5-12表 年齢階級別賃金格差」(p.182)を参照。
(注) 日本は2015年、欧州は2014年の数値。

上のグラフは、29歳以下の賃金を100としたときの年齢階級別賃金指数(格差)を示したものである。

日本では29歳以下との賃金の格差は、30～39歳層で1.3倍、40～49歳層で1.5倍、50～59歳層で1.6倍へと拡大していき、60歳以上層になると1.1倍に縮小する。

欧州諸国を見ると、フランス、イタリアは年齢階層とともに賃金が上昇している。その他の国は40～49歳層をピークに賃金が下がっている。

年齢階層間の賃金格差は、職種別に見ると「管理・事務・技術労働者」で大きい。例えば上のグラフでは、フランスは60歳以上層でも格差拡大が続き、29歳以下の1.8倍に達しているが、同年齢階層間の賃金格差を職種別に見ると、「生産労働者」の格差は1.3倍程度だが、「管理・事務・技術労働者」では2倍近くになっている。

なお、これらの数値を理解するためには、年齢階級別の労働力率「第2-11表 性別・年齢階級別人口・労働力人口・労働力率」(p.67)もあわせてみる必要がある。